

連珠っておもしろい

九段 河村典彦

●第56回●

ヨーロッパ選手権

チーム戦に引き続き、今度はヨーロッパ選手権に行くことになった。しかも今回は完全に選手としてである。すっかり欧州の選手にはお馴染みになったが、今回もすんなり受け入れてくれた。ニコノバさんに問い合わせたのが5月。ビザを取得しないと行けないので、結構準備が大変だった。以下詳細を報告するが、連珠世界にも報告するので、できるだけかぶらないように主に裏話を中心に伝えしよう。

ロシアはもう20年前とは違う。ノソフスキー氏いわく、「ロシアはヨーロッパより自由だ」。その言葉通り、街には自由があふれていた。ただし、その代わりすべての基準がお金に変

わってしまった。昔は1ルーブルが1ドル以上あったのだが、今は1ルーブル3円以下である。しかも、かなり切り下げをやったらしい。今回そのノソフスキー氏と再び会うことにした。今回は自宅に訪問した。商売を成功させているからかなりの豪邸だろうと思っただけ、敷地はばかどかい。その中にぼつんと3階建ての家が立っていた。場所はドモジエドモ空港とモスクワの間で、日本で言えば村である。しかし、今はインターネットの時代、家にも仕事ができる。しかし、やっぱりモスクワに住みたいように、近々引っ越すらしい。その新居にも行ったが、豪華なマンションで、内装を奥さんがデザイナーに依頼して改装中であつたところどころに装飾が施してあつたから、結構お値段はするのだから。しかし、ノソフスキー氏は今は奥さ

んと5歳の娘に全力投球しているようで、惜しみなく家族にお金を使っている。前にも書いたが彼は3度目の結婚で、奥さんも再婚。奥さんの連れ子が2人、そのうち高校生の男の子と住んでいるようだ。5歳の娘は2人の子だから当然かわいくて仕方がないという感じだろう。今回おみやげにテイベアをあげたらすごく喜んでくれた。将来覚えてくれればいいけどなあ。

<ノソフスキー一家>



翌日は奥さんの運転でモ

スクワへ。有名な交通渋滞で2時間もかかった。しかも先に書いた新居に行く車のついでだったから、近くの地下鉄駅まで送ってもらった。そう言えば87年にモスクワに来た時も地下鉄に乗ったつけ。モスクワの地下鉄は大江戸線並みに地下深い。でも料金は均一で安い。ドイツに比べたら物価も安そうだ。少々高いホテルを予約し、2時に夕歩いてクレムリンに行き、2時間ほど観光した。タイブリン氏は連珠仲間をクレムリンに最近よく案内しているらしく、もう3回目とのこと。すまないね。でもいろんな話が聞けてよかった。で、その翌日。ホテルまでタイブリン氏に迎えに来てもらい、そこからまた地下鉄に乗り、待ち合わせの場所まで向かう。そこで見たような顔に出会う。何と、かの有名なタラニコ

<懐かしい顔、コジンとタラニコフ>



フ氏ではないか！。少々太って老けたが、ひげは健在だ。結局、4人で乗り合わせて車でスズダリに向かうことになった。

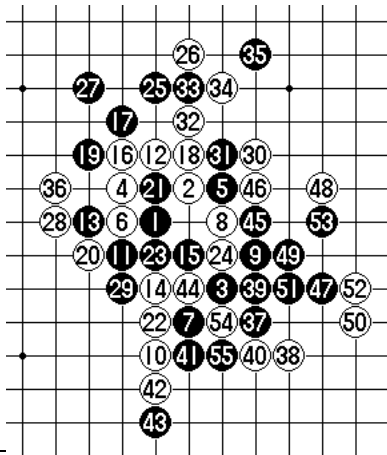
いや、ようやく今回の目的地に行くことができる。3時間のかつ飛び運転で今回開催されるスズダリホテルに到着。かなり汚いホテルを想像していたが、1泊5千円程度でダブルの部屋をシングルで使わせてもら

<会場となったスズダリホテル>



い、案外いい設備だった。老朽化はしているが、ちゃんとお湯が出る。食事も3度ちやんとあり、味もシンプルだがおいしかった。(特にシチュー系の食事は絶品)フースクバルナより良かったと言えればわかる人にはわかるだろう。プールやボーリング場もあり、日本人観光客も結構見かけた。

夜8時から開会式。と言っても抽選があるだけのシンプルなもの。日本からはもちろん私だけだが、ロシ



アとエストニア(あとラトビアが1名)の選手しかない。欧州選手権というには少々寂しい。さて、1回戦の相手はメトエベリさん。今回も多く生徒を連れてやってきていた。タラグチルルは掲示板ではやっていて、実際戦は初めてである。黒1を打たれ、普通はスワップするらしいが2の向きが自分の方がいいと思いい間接に打つ。するとメトエベリさんはさすが流星を打ってきた。どうも珠型を選ば

せるのは策戦にはまる可能性が大きいと見て、スワップしない方が一般的だった。前にも書いた流星の流行形になり、黒27までを打った。メトエベリさんはここで固まったが、白28とノリ手で防いできた。なるほど、よく読んでいる。しかし、白36が失着で、研究通り右下で勝つことができた。出足2連勝と好調だったものの、タイムラには油断の一着で完敗、タラニコフには策戦にはまり負けるなどなかなかうまくいかない。それでも6勝2敗1分で3位に入れたのは上出来だったのではないだろうか。(本戦への参加24名中)ロシアは昔と違って観光客も多く、何より不思議な魅力がある。ビザが必要などまだまだ不自由だが、また来てみたいと思わせる活力があった。2週間近くの夏休みをたっぷり満喫できた、今回の旅行であった。